



しばらくの間、本通信を出すことを自重しておりましたが、本日からまた配付させていただきます。校長として書かなければいけない内容があることは承知しておりますが、昨日の学校からの文書にてお許しいただき、本通信はこれまで通り、保護者の皆さんと一緒に考えてみたいことについて書かせていただきます。

父の日に

父親の一人として書かせてもらいます。先にお詫びしておきます。偏見が入っていると思います。

家事の分担は、お母さんの方がお父さんより分担が多いようです。内閣府の調査では、夫婦の家事・子育ての分担の割合は、「夫1割、妻9割」という回答が31.6%で最も多く、次いで「夫2割、妻8割」が24.0%となり、この2パターンで全体の半分以上を超える結果になりました。



子どもたちからお母さんへの感謝を伝える言葉には「おいしい食事をありがとう」「いつも洗濯をありがとう」「掃除をありがとう」など、家事の内容が多いのではないのでしょうか。

ところが、お父さんに対しては「仕事をがんばってくれてありがとう」などの感謝の言葉が多いのではないかと思います。子どもにとって、お母さんの仕事の多くは理解できていても、お父さんのことはよくわかっていない場合が少なくないと思います。世のお父さん方は、家族のため、子どもたちのためにがんばってくれているのですが、そのがんばっている内容が子どもに伝わっていないことも多いと思うのです。

父の日に、家族や父子で会話をする機会がありましたら、お父さんのことについて話す機会をつくってみたいかかと思えます。また、これを読んでいる小学生のみんなには、父の日に、お父さんの仕事の内容について尋ねてみるといい感謝になるのではないかと思います。私どもの仕事のように、守秘義務があって、詳しいことが話せないということも多いとは思いますが…。



私の担当は、皿洗いをはじめ、夕食の片づけです。毎日やっています。今は妻と2人暮らしですが、長男が生まれたころからやっていますので、25年以上になります。夕食には一杯飲みたいので、息子たちや妻よりも、私の夕食の終わりが遅くなります。息子たちが小さいころ、息子たちを寝かす役を妻に任せ、夕食の片づけは私の分担とし、そのまま今に至っています。夫婦共働きです。家事ももっとやらないとなあとありますが…。

…一杯飲んで眠くなり、夜中に目覚めて、食器を洗っていたり、明け方まで寝てしまい、明るくなってから洗っていたりなどということもたまにあります。ステイ・ホームの休日は、昼食の片づけもしています。

…写真は皿洗いロボットです。こんなロボットがあればいいなあと思いますが、もう近い将来のことでしょうか。

本校の職員に「校長先生は、家では何にもしないんでしょうね。」と皮肉られると「むむっ」夕食の片づけをしている話をします。多くの女性職員は意外な反応をし、謙遜もあると思いますが、声をそろえて「うちのダンナ(父)は、何もしてくれませんよお」と言います。いろんな家庭があり、様々な考え方がありますので、これが夫(父)として、十分なことなのか、普通なのか、まだまだ足りないのか、30年近くたった今でも、判断できかねないでいます。妻に言わせると、全然足りていないと言われそうなので聞く勇気がありません…。

お父さんが大好きな一人娘の話

幼い娘が父の日に、手作りの「肩こり治療券」をプレゼントしました。

その治療券は自宅を治療院にみて、

一枚一枚丁寧に診療時間や名前、予約の電話番号などを記入した手の込んだものでした。

しかし、お父さんは治療券を全然使ってくれません。

肩もこらず元気なのはうれしいのですが、娘はちょっと不満です。

「なんで使ってくれないの？」と聞いてもお父さんは「今度ね。」と言うばかりでした。

時が流れ、娘はすっかり大人になり、肩こり治療券のことなど忘れてしまいました。

お父さんとの関係も以前とは変わり、会話も少なくなりました。

そんなある日、お父さんが小銭だけを持ってタバコを買いに出かけました。

すぐ近所のはずなのに1時間たっても帰ってきません。

財布も携帯も家に置いてあり、連絡も取れません。

娘とお母さんはだんだん心配になってきました。



そこへ家の電話が鳴りました。

なんと、お父さんが事故で病院に運ばれていたのです。

すぐ病院に向かい、お父さんのもとへ行くと、

家に連絡をくれた看護師さんがお父さんの小銭入れを持ってきました。

「小銭入れの中にこれが入っていましたよ。おかげで連絡することができました。」

看護師さんが見せてくれたのは小さな紙切れ。

娘はその紙を見て思い出しました。

それは幼いころ、父の日にプレゼントした未使用の「肩こり治療券」だったのです。

幼いころの父の日のプレゼントをお父さんは大切に持っていてくれたのです。

娘は自分が作った肩こり治療券が、

お父さんの事故を知らせてくれることになるとは思っていませんでした。

幸いお父さんは軽い骨折で、命に別状はありませんでした。

本当に心配した大事件でしたが、今となってはいつまでも語られるいい思い出となりました。

母の日のときも涙腺崩壊したYouTubeの動画の話を書きました。
そのとき関連動画に「パパ検定」というタイトルがあるのが気になりました。
母親関連の動画ほどではないだろうと見てしまい、見なければよかったと後悔しました。

